

# みどりでクラフト

私たちの衣食住は、自然の恵みによって支えられています。素材の加工が巧みになったことで、直接的に自然の恵みを感じられなくなっています。装飾品や身のまわりの小物を植物でつくることを通して、ものと自然の密接な関係、人と自然の結びつきを確認しましょう。

## ◎あそびかた

### みどりのファッション

準備物：厚紙、粘着テープ、クレヨン

- 1) 子どもたちが気に入った草花や木の枝、葉っぱを集めます。
- 2) 台紙となる紙を腕輪、首飾り、冠など装飾する形に切って準備します。
- 3) 集めた草花や枝、葉っぱなどを台紙に自由に配置してテープで貼ります。
- 4) 貼ってない所にさらにクレヨンなどで装飾してもよいでしょう。
- 5) ペンダントやお面など自由な発想で装飾できるようにしましょう。

### 葉っぱのしおり

準備物：樹木や草花の葉っぱ（葉脈がはっきり出ているもの）、絵の具、筆、紙、ひも

- 1) 新聞紙など汚れてよい紙の上に葉っぱを置き、絵の具を塗ります。
- 2) 葉っぱを汚れていない紙の上に移し、写す紙を上置いてこすります。
- 3) 紙をそっとはがし、できた葉っぱの絵を好きな形に切って穴をあけ、ひもを通せばしおりのできあがりです。ラミネートすると丈夫になります。

このあそびの対象

環境教育の視点

生き物



多様性



ねらい

- 草花、葉っぱ、木の枝などの自然物の形、色、手触り、香りの違いに気づく。
- 草花や木への関心や親しみを持つ。
- 生木や草花の生命への気づきを得る。
- 植物を素材とした製作の楽しさを感じ、自分でつくりあげることでのものに対する愛着を育む。

年齢

3歳・4歳・5歳

季節

秋・冬

場所

園庭・公園



# みどりでクラフト

## ◎あそびかた

### 押し花かざり

準備物：半紙、古新聞紙、雑誌

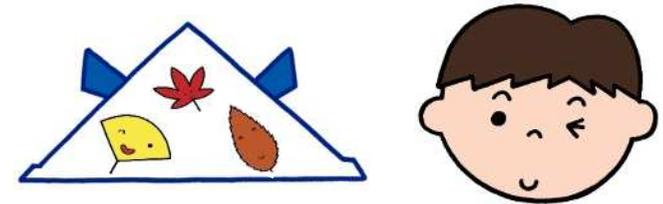
- 1) 草花を集めて半紙にならべて新聞紙ではさみ、2日ほど雑誌などで重しをします。
- 2) 半紙をあけて湿っていたら、半紙と新聞紙を交換してもう2日ほど重しをします。
- 3) よく乾いたら押し花のできあがりです。厚紙に貼ってラミネートすれば、しおりになります。



### 葉っぱの帽子づくり

準備物：新聞紙、テープ、クレヨン

- 1) 新聞紙で帽子を作ります。
- 2) テープで葉っぱを貼ったり、クレヨンで絵を描いたら、自分だけの帽子の完成です。



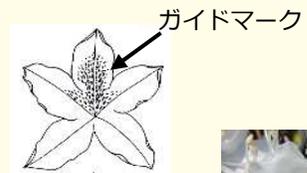
### 落ち葉製作

準備物：花の形に切った色画用紙、のり

- 1) 晴れた日に行います。
- 2) 好きな形・色の葉っぱを拾います。

## コラム 昆虫と花の関係② ～花の模様～

春に鮮やかに咲くツツジの花には、斑点の模様がついています。このツツジの花の色や模様、形にも花粉を運ぶ虫をおびきよせるという重大な意味があります。ツツジは、チョウが来た時、蜜を吸う場所の目印となる模様を花につけています。これを「蜜標(みつひょう)」または「ガイドマーク」と言います。この蜜標はユリ、カタクリ、マメ科のものなどたくさんの植物が持っています。



ツツジの蜜標に寄る虫 →



# クラスの木を飾ろう

日頃から目にする木々の木肌は、デコボコしていたり、ツルツルしていたりと種類によってずいぶん違うものです。木肌をこすりだすことで、木の感触やにおいを楽しめるでしょう。この「こすりだし」から、クラス全員の力を合わせて1本の木を作ってみましょう。木の色々な部分からこすりだすことで、木が幹、枝、葉っぱでできていることをあらためて知ることができます。

## ◎準備

準備物：模造紙2～3枚、薄手の紙、クレヨン、のり

## ◎あそびかた

- 1) 園庭の木々の中から、こすりだす木を1本決めます。こすりだす木は、先生が決めても、子どもたちで相談して決めてもよいでしょう。
- 2) 木肌や葉っぱからこすりだしをしていきます。このとき、木肌が茶色、葉っぱが緑色と決めずに、自由な色を使ってみましょう。
- 3) 木肌のこすりだしをつなぎ合わせて木の幹や枝を表し、模造紙に貼ります。
- 4) 枝のまわりに葉っぱのこすりだしを貼り付けて、1本の木を完成させます。

## ◎発展・応用

- ・色々な種類の木がある場合、こすりだしを見てそれがどの木かをあててみましょう。
- ・こすりだす木を1本に限定しないで、様々な木のこすりだしをしてみましょう。
- ・園庭の木のこすりだし図鑑をつくるのもよいでしょう。
- ・葉っぱはこすりだしだけではなく、スタンプでインクをつけて紙に写す方法もあります。
- ・木に限らずに、様々な自然物のこすりだしを楽しんでみましょう。

## このあそびの対象

生き物



多様性



## 環境教育の視点

## ねらい

- 木が幹、枝、葉っぱでできていることに気づく。
- 木の感触を楽しむ。
- 自由な色を使うことで表現する楽しさを感じる。
- 協力してつくる楽しさを感じる。

## 年齢

3歳・4歳・5歳

## 季節

春・夏・秋・冬

## 場所

園庭

## ◎ふりかえり

木の肌や葉っぱにさわってみて、どんな感触だったか話してみましょう。



## ◎留意点

ゆっくり木とふれあう時間を持ちましょう。木肌の模様や感触、葉脈の模様などを楽しみましょう。

# くんくん探偵団

園庭や公園には、色々な種類の花や木々が見られると思います。春のウメやフジ、夏のオシロイバナ、秋のキンモクセイといった花は季節の香りを届けてくれる植物たちです。「香り」を手がかりに、園庭の自然を探してみましょう。

## ◎準備

園庭や公園にある香りをあらかじめ把握しておきましょう。

準備物：ふたに穴をあけたビン（ビンは、中が見えないように色付きのもの、もしくは紙などで周囲を被っておく。）、香りのする自然物

## ◎あそびかた

- 1) 子どもたちの好きな香りをたずねることで、「香り」に意識を向けましょう。
- 2) 香りのする自然物が入ったビンを渡し、中の香りを確認します。
- 3) 香りを確認したら、園庭・公園のどこに同じ香りがあるか探します。
- 4) わかりにくい香りの時には、ヒントを出しましょう。
- 5) 戻ってきたら、どの香りだったかを確認しましょう。

## ◎ふりかえり

- ・園庭や公園にはどんな香りがあったでしょうか？
- ・なぜ自然には香りがあるのか考えてみましょう。

## コラム 昆虫と花の関係③ ～香り～

草花の美しい香りも、色と昆虫の関係と同じように、人を楽しませるためにあるわけではありません。香りも昆虫を誘うために発せられています。スズメガ（写真左）はマツヨイグサ（写真右）の蜜を吸いに訪れます。スズメガは夜行性のため、マツヨイグサもスズメガの活動時間帯に花を開いて香りを発しています。このように花と昆虫は色と同様、香りも取り持っているのです。



## このあそびの対象

生き物



## 環境教育の視点

多様性・  
つながり・  
いのち



## ねらい

- ・自然の発する香りの存在に気づく。
- ・自嗅覚をとぎすまして香りを意識する。
- ・香りを通じ植物と他の生物のつながりを知る。
- ・香りの出所を探す楽しさを感じる。

## 年齢

4歳・5歳

## 季節

春・夏・秋・冬

## 場所

園庭・公園

## ◎発展・応用

- ・入れ物は、ビンではなく袋や箱でもかまいません。
- ・香りを絵や記号で表現してみましょう。（「サウンドピカソ（P.22）」の香り版）
- ・園内にあるよい香り、いやなにおいを探してみましょう。
- ・園庭の色々な香りを見つけて、香りの地図をつくってみましょう。（参考：「園庭の自然地図（P.18）」）
- ・季節を変えて香り探しをやってみましょう。

## ◎留意点

香りの自然物を入れる容器は、他の香りがついていないものを使いましょう。



## 関連するあそび

園庭の自然地図 …… P.18

サウンドピカソ …… P.22

# プロペラ種とばし

植物は種子によって、その子孫を残していきます。子どもたちに人気のドングリもタンポポの綿毛も植物の種子です。種子を散布する方法は、植物によって様々な工夫がなされています。カエデは、園庭や公園などで身近によく見られる樹木です。カエデを見かけたら、種子を観察してみましょ。このカエデの種子は翼をつけたユニークな形をしていて、風の力を受けてプロペラのように回転しながら飛んでいきます。「プロペラ種とばし」はカエデの種の模型をつかって飛ばすあそびです。本物の種といっしょに飛ばしてみるとさらに楽しいでしょう。

## ◎準備

- ・園庭の草木は、どのように種を広げるのか調べておきましょう。
  - ・実施する時期は、カエデが種をつけている夏から秋がよいでしょう。
- 準備物：折り紙、クリップ、30cm程度の高さの踏み台

## ◎あそびかた

- 1) 可能なら本物のカエデの種を子どもたちの前で飛ばして見せましょ。また、子どもたちの手で実際に飛ばしてみましょ。
- 2) カエデの種の模型（種プロペラ）を折り紙で作ります。（付録P.70）
- 3) できあがった模型を実際に飛ばして本物と比べてみましょ。

このあそびの対象

生き物



環境教育の視点

多様性・いのち



ねらい

- ・種が空を飛ぶことが命を繋いでいくものだとことを知る。
- ・種が空を飛ぶという植物の不思議さを感じる。
- ・種のつくりをよく見る。
- ・種を飛ばす楽しさを感じる。

年齢

4歳・5歳

季節

夏・秋・冬

場所

園庭・公園

## ◎ふりかえり

- ・なぜ種が飛んでいくのか、考えてみましょ。
- ・カエデ以外に飛ぶ種には、どのようなものがあるか調べてみましょ。
- ・他の植物はどのように増えていくのか、考えてみましょ。
- ・園庭の木がどのように実をつけるか、調べてみましょ。また、種が広がる方法も調べてみましょ。



カエデ科イロハモミジ

## コラム 命をつなぐ種の不思議

草植物はその場から動くことができません。このため、進化の結果、それぞれの生息環境に合わせて、種をより遠くへ散布する手段を身につけました。

- 1) 動物に食べてもらおう（糞と一緒に散布）例：カキ、ミカンなど
- 2) 動物にくっつく 例：オナモミ（くっつきむし）など
- 3) 自力で飛ぶ（果実が弾けて散布）例：ホウセンカ、スミレなど
- 4) 風の力で飛ぶ（毛や翼をつけて移動）例：タンポポ（綿毛）、カエデ（翼）など
- 5) 水の力で移動（海や川の流れてのって移動）例：ヤシ、マングローブなど
- 6) 自分の重みで落下する…例：ドングリ、ツバキなど

# お米を育てる

毎日食べるお米は「イネ（稲）」という植物（草）の実です。稲は農家が田んぼで育てていますが、幼稚園・保育所等でも園庭でバケツやセメントをこねる箱（プラ舟）をミニ田んぼにして育てることができます。お米づくりは、約半年にわたって植物の生長（変化）を観察できると共に、種まきから収穫、加工まで1年を通して関わる活動です。

## ◎準備

- ・農家の知り合いがいたら、お米づくりについて詳しくたずねてみましょう。
- ・この活動は、年間を通して取り組むこととなります。他の行事との兼ね合いも考慮して、事前に活動計画をしっかりとたてましょう。
- ・種もみを取り寄せるために、なるべく早い時期に地元のJAや知り合いの農家にお問い合わせしましょう。

準備物：苗箱用牛乳パック、バケツ等

## ◎あそびかた

- 1) 種まき：種もみを水に入れて芽を出す（芽だし）。その後育苗箱（牛乳パック等）に種まき。
- 2) 田植え（植え替え）：15cm程度に育ったら、田んぼ用の入れもの（バケツやコンクリートパレット）に移し替え（田植え）。
- 3) 生長：途中肥料をやり（追肥）、7～8月に花が咲く（出稲）。
- 4) 稲刈り（収穫）～干し：鎌やはさみを使って稲刈りする（収穫）。収穫した稲は束にして2週間程度干す。
- 5) 脱穀～もみすり：手や割り箸で脱穀。千歯こきがあればよい。播り鉢をつかって、もみすり。
- 6) 精米・食べる（炊飯／もちつき）：精米機で精米したあと、炊いて食べる。餅米の場合はもちつきに使う。

## ◎ふりかえり

1年を通じて、稲がどのように生長し、どのような作業をしたか確認しましょう。

## このあそびの対象

## 環境教育の視点

生き物



いのち



## ねらい

- ・植物の生長を観察して変化を知る。（種→発芽→葉の生長→開花→実）
- ・稲の生長に合わせて、田植え、水やり、稲刈りなどの作業を楽しむ。
- ・収穫後の食を楽しむ。

## 年齢

4歳・5歳

## 季節

春・夏・秋・冬

## 場所

園庭

## ◎発展・応用

- ・脱穀した後の藁（わら）を使って工作してみましよう。
- ・田んぼには様々な生きものが集まります。季節によってどのような生きものが集まってくるか観察しましょう。稲刈り後、泥の中にヤゴがいたら育ててみましょう。

## ◎留意点

稲をエサとする昆虫やスズメの被害にあいやすいので、しっかり対策しましょう。

## コラム お米の生長

イネ（稲）は1年草※の植物で、他の植物と同じように種をまき、大きく生長して実（お米）をつけるという過程を経ます。この植物の生長過程を春から秋にかけてじっくり観察することができるのがイネです。また、園庭で行う場合には農薬などは使いませんので、条件が合えばミニ田んぼに色々な生き物が集まってくることも考えられます。また、育てていく間には色々な作業があることを知ることでもあります。※1年草とは、1年以内に、種子から発芽し、生長、開花、結実し一生を終える草。2～3年寿命が続く草を2年草、3年以上寿命が続く草を多年草といいます。

# 実施例

年齢	5歳児	人数	18人	季節	春・夏・秋	場所	園庭
----	-----	----	-----	----	-------	----	----

## 実施内容

### ◆準備

- ・種もみを作る
- ・米を育てる話を聞かせる
- ・稲の生長表をクラスに掲示する
- ・箱苗用発泡スチロール、種もみ、土、ネットを準備する



### ◆5月 稲の栽培開始 土づくり

事前に米作りの話を聞いていたので、意欲的に取り組む。水やり当番について話し合う。普段の当番に追加し行うことにする。写真を撮り、子どもたちと生長の確認をする。「やることがいっぱいあるね」と子どもたちから声上がる。

### ◆6月 稲の移し替え

保育室の生長表を確認しながら慎重に行っている。成長に気づくとともに、先々どうなるかという見通しを持つとする姿がみられる。

### ◆8月 穂に気づく

生長表に目を向けるようにする。ネットをかける話し合い。

### ◆10月 稲刈り

用務員と事前打ち合わせをし、稲刈りをする。成長表で干すことが必要なことも把握している。食べることを楽しみにテラスに干す。今後精米を子どもたちが行う。また、おにぎり作りにつなげ、食を楽しむ機会を作りたい。



年齢	5歳児	人数	13人	季節	—	場所	園庭
----	-----	----	-----	----	---	----	----

## 実施内容

### ◆導入

子どもたちが普段から親しんでいる「かっぱおやじ」から種もみの入った手紙が届き、「おいしいおにぎりが食べたい」と書いてある。「お米を作ってかっぱおやじに届けなと！」とはりきる姿があった。

### ◆5月

種もみを水につける。芽が出てくることを楽しみに観察する。「ちょんまげみたい」「頭から芽が出ている」と気づく。土づくり、種もみの植え替え。泥の感触を感じながら行う様子があった。

### ◆6月 田植え

カ他にも栽培物があるため、「水やり当番はいっぱい仕事があって大変だ」という言葉があった。普段食べているものも、農家の人が一生涯懸命お世話してくれているから食べることができるんだね、ということ伝える。

### ◆9月

「大きくなってきた」「水がなくなってきた」など稲が成長していく様子を保育者に教えてくれる姿があった。穂が出たり、変化があったときなどは保育者からも知らせ、気づきのきっかけづくりをした。

### ◆10月 稲刈り

稲の色が変化していることに気づく。「かっぱおやじにおにぎりが作れる！」と楽しみにしている。今後、脱穀や精米の工程があることを、絵本を使って知らせる。



# 緑のカーテンを作ろう

緑のカーテンは、ゴーヤーやアサガオ、ヘチマなどつる性植物（1年生草本）を窓際にカーテン状に育てたものをいいます。日差しを遮ると同時に、植物の蒸散作用による気温低減効果が期待できます。日差しを和らげて室内温度の上昇を抑えることにより、冷房などの使用を少しでも抑え、省エネ効果が期待できます。このように、緑のカーテンは、自然にふれると同時に環境問題に対する取り組みにもなります。子どもたちと緑のカーテン作りを通して自然とのふれあいを進め、また、室内の気温の変化を感じてみましょう。

## ◎準備

5月頃：種の準備 種のとがったところを少し切って、水でたっぷり湿らせたガーゼの上に置きます。（3～4日程度で根が出ます。）

準備物：土・肥料（培養土）、ポット（または牛乳パック）、プランター、ネット

## ◎あそびかた

- 1) 種を植える：根が出た種をポット（または牛乳パック）に植えます。白い根を下向きに、2～3 cmくらいの深さに植えましょう。
- 2) プランターに植え替える：葉っぱが3～4枚になったら、プランターに植え替えます。苗の間隔は30 cmくらいあけましょう。
- 3) ネットを設置する：つるが伸びてきたら、ネットを設置します。10 cm幅の網状のネットが適しています。

## ◎ふりかえり

緑のカーテンがあるところとないところでは、感じる温度に違いはありましたか？なぜ違いがあるのか考えてみましょう。

このあそびの対象

環境教育の視点

生き物



存在・いのち



ねらい

- つる性植物の生長を観察して変化を楽しむ。
- 植物の力や太陽の光の力を感じる。



年齢

4歳・5歳

季節

夏

場所

園庭

## ◎発展・応用

緑のカーテンに生き物がやってきたら、みんなで生き物探し（P.45）にもつながてみましょう。

## ◎留意点

- プランターに苗を植え替えた後、苗がまだ小さいうちは風や雨に当たって倒れてしまうことがあります。そのときは長さ40 cmくらいの支柱を使いましょう。
- 実がなくても大きくならず、すぐ黄色くなってしまふときは、土に栄養が足りません。プランターに肥料を足しましょう。食べ物の循環～微生物の土作り～（P.50）で作った土を使うのもよいでしょう。



## 関連するあそび

みんなで生き物探し…………… P.45

食べ物の循環～微生物の土作り～ …… P.50

# 実施例

## ◆用意したものや世話の仕方について（過去の取組事例から抜粋）

- ・プランター、ネット、土、化成肥料、支え棒を用意して栽培、芽が出てからネットを取り付けた。
- ・5月中旬に園の花壇に地植え。気温が25度前後あり、ゴーヤーを育てるには最適な状況だった。ポット1個に3粒の種を植えて間引きして地植えするとよい。
- 支柱とロープを立て、子どもたちと一緒に水をこまめにあげた。
- 1ヶ月が経つと、わき芽がでてきたので適当に摘んで実栄養がいくようにし、追肥も行った。
- 黄色の花が咲いたら受粉させ、やがてゴーヤーができ始めた。7月下旬、色も形も立派なゴーヤーができた。



## ◆子どもたちの反応（過去の取組事例から抜粋）

- ・黄色く熟したゴーヤーを見て驚いていた。
- ・「赤ちゃんゴーヤーができた！」と、毎日観察をして喜んでいました。
- ・ゴーヤーの実がなるたびに喜び、だんだんと実がオレンジ色になっていくのを驚き不思議がっていた。
- ・園舎2階まで成長したゴーヤーに興味深くみていて「先生、小さいのができているよ！」と教えてくれた。



## ◆ふりかえり（過去の取組事例から抜粋）

- ・ゴーヤーがいろいろな表情を見せてくれて、園庭あそびのたびに話題になった。
- ・育てやすく「緑のカーテン」と言われているように日差しも遮ってくれるので、また育ててみたい。
- ・夏休みに入ってしまう子どもたちはほとんど関われなかったのが残念だった。
- ・育てた場所が、子どもたちが出ることのできない場所だったので見るだけとなってしまったのが残念だった。



## コラム 命の大切さ

命の大切さは、死に出会う経験ではなく、生に関わる経験から学ぶのです。生き物の「生」との時間を共有して関わりが密接であればあるほど、死による喪失感が大きくなり、失われた命の価値がわかります。生に関わる経験が豊かにあったときに、有限な命の重みを心から捉えることができます。飼育栽培では、生き物の成長観察と同時に命や生、死を伝える機会として捉えることが大切となります。

